

春はるの風かぜが、やさしく吹ふいて

いた。道みちには、小ちいさな花はなが咲さ

いている。馬車ばしやの音おとが、静しずか

に町まちをぬけていく。

どこか遠とおくへ行いきたくなるよ

うな午後ごごだった。

横光利一よこみつりいち「春はるは馬車ばしやに乗のって」より